

7

これからの地域連携 7つのポイント

まとめ



地域に「存在」するだけではそのコミュニティのメンバーにはなれない。大学のリソースを総動員して地域の課題解決にコミットすることで、結果的に大学が地域にとってなくてはならない存在になり、地域が自学の教育・研究、そして経営を支える基盤となるのではないか。

これまで

これから

1 取り組み方

一部の学部や部署、
各教員任せ

経営戦略として計画的に、
全学体制で取り組む

大学としての意思決定と全学推進のための中心となる窓口をつくれれば地域も相談しやすくなる

2 連携協定

とりあえず所在地周辺の
自治体と数多く結ぶ

お互いの課題が一致し、リソース
を生かせる自治体と手を組む

実体がない「名ばかり」協定では意味がない。協力関係を築きやすい地域と手を組もう

3 企画の発想

大学の教育・研究
シーズありき

地域の課題、事情といった
地域のニーズ主導

大学のシーズありきでは地域の課題は解決できない。地域の現場に入り、そのニーズから発想を

4 継続性

一時的、イベント的

継続的、持続的

地域の持続可能性を高めるためには継続性が重要だ。そのためには、組織として取り組もう

5 立場

学識経験者枠、お手伝い

地域コミュニティの一員、当事者

第三者的な立場ではなく、その地域の当事者としてコミットしよう

6 ヒトモノカネ

学内でやりくり

大学、自治体や地域の産業界、
市民などがお互い出し合う

自学だけで賅っているのは継続性は低い。地域のさまざまなステークホルダーにも協力を願おう

7 指標

学内の各種評価だけ

地域の各ステークホルダーから
の評価

地域の課題がどこまで解決できたかどうか？ 現実的、具体的な指標の設定を